

広島市スポーツ振興審議会第2回スポーツ振興計画検討部会 会議録

開催日時

平成21年7月28日(火) 午後3時～午後5時20分

開催場所

広島市中区地域福祉センター5階ボランティア研修室

出席者

- 1 委員11名全員出席
東川部会長、小野副部会長、阪田委員、崎田委員、曾根委員、田川委員、中本委員、鍋島委員、西野委員、萩原委員、本谷委員
- 2 オブザーバー 3名中1名出席
中野オブザーバー
(欠席:新出オブザーバー、富中オブザーバー)
- 3 事務局(市)
市民局文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、
教育委員会学校教育部指導第一課文化・スポーツ教育担当課長

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) スポーツに関する意識調査結果の概要について
 - (2) 第5次広島市基本計画案について
 - (3) スポーツ振興に関する現在の取組と今後の課題等について
 - (4) スポーツ振興計画の策定に当たって
- 3 閉会

公開・非公開の別

公開

傍聴者

なし

会議資料

広島市スポーツ振興審議会第2回スポーツ振興計画検討部会 次第

広島市スポーツ振興審議会第2回スポーツ振興計画検討部会 委員等名簿

議事の(1)関係

スポーツに関する意識調査の概要

議事の(2)関係

第5次広島市基本計画案について

【第5回広島市総合計画審議会（平成21年7月10日開催）議事資料抜粋】

議事の(3)関係

スポーツ振興に関する現在の取組と今後の課題等について

広島市のスポーツに関する基礎的データ

議事の(4)関係

スポーツ振興計画の策定に当たって

会議の要旨

1 開会

2 議事（「 発言の要旨」参照）

(1) スポーツに関する意識調査結果の概要について

（議事の(1)を説明し、説明内容について意見交換後、了承）

(2) 第5次広島市基本計画案について

（議事の(2)を説明し、説明内容について意見等なし）

(3) スポーツ振興に関する現在の取組と今後の課題等について

（議事の(3)を説明し、説明内容について意見交換後、了承）

(4) スポーツ振興計画の策定に当たって

（議事の(4)を説明し、説明内容について意見交換後、了承）

3 閉会

発言の要旨

【議事の(1)：スポーツに関する意識調査結果の概要について】

〔東川部会長〕

議事の(1)「スポーツに関する意識調査結果の概要について」事務局から説明をお願いします。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

< 配付資料を説明 >

〔東川部会長〕

事務局から「スポーツに関する意識調査結果の概要について」説明をいただいたが、内容について何か御質問等があればお願いします。

〔田川委員〕

広島の特性を見る上で、全国的な数値との比較というものが何項目かは必要ではないかと思う。例えば運動の週一回以上の実施率など広島は半分以下で低いように感じる。

〔東川部会長〕

今回の調査もある程度全国調査を参考にしているので柱になるような項目を次回にはお示ししたい。

子どもたちの中で運動をする子としない子で二極化する傾向が見られると一般的によく言われているが、これも小学生、中学生、高校生でどのように違うのかという部分もこれから見ていかなければならない。全体的には8割と高いが。

〔鍋島委員〕

都市部と山間部との意識の違いは何か出ているのか。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

居住区を調査項目に入れているので区毎の集計は出ると思う。

〔東川部会長〕

昭和55年・56年に区スポーツセンターを建設する際に、旧市内と新市内を分けて調査したことがある。

〔鍋島委員〕

体育指導委員の数と地域の活動状況と数字的に合っているのかどうか。山間部は活動が広域になっていて社会的な役割も担っていることから全ての要望に対応できないような状況があったり、都市部は座っていれば相談に来られるような状況なので、そういった面では体育指導委員の数が地域のスポーツ人口に影響を及ぼすという観点から考えると、都市部と山間部の適切な人員配置がなされているのかと思う。

〔中本委員〕

指導者のところで、市民も児童もプロのコーチに教えてもらいたいと回答している人が多い。日本体育協会に上級コーチなどのライセンス制度があるが、広島市でこういった資格をもっている人が何人いて、どのような役割を果たしているのかということも知りたいし、数が足りているのか足りていないのかや、希望すれば快く来てもらえているのかも知りたい。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

広島市では、現在そういうデータはもっていない。

〔東川部会長〕

日本体育協会の指導者は登録制度なので、広島県体育協会では把握していると思う。実際プロの人から教わりたいという希望に対して、実際に対応できているのかどうかについては、分析できるのではないと思う。これは預かりにさせてもらいたい。

〔鍋島委員〕

現在困っていることで、大人の方はだいたい予測ができるが、子どもの回答が「運動・スポーツをするときのお金」が二番目になっている。大人はお金を出してスポーツをするものだと思うのかもしれないが、子どもの場合は、スポーツはタダという気持ちがあるからこのような回答が出てくるのかもしれない。子どもがそういう意識になっているというのはもう少し配慮する必要があるのかもしれないが、全国的な動きの中で広島における子どもへのスポーツ施設使用料等の免除項目が多いのか少ないのかについて比べて見ないといけないのかなと思う。

〔小野委員〕

やはり、学校のプールならお金はかからないが、区のプールやスポーツセンターなどはお金がいる。

子どもたちのアンケートで男女別の結果は出るのか。男子のクラブはサッカーにしてもソフトボールにしても学校区で1チームはあるが、女子のクラブは少ないように思う。昔は小学校など女子のバレーボールチームはあったと思うが、今は子どもの数も少なくなっているためバレーボールチームもかなりなくなっていると思う。小学校区で女子のバレーボールチームがど

れくらいあるのか知りたいと思う。大人のバレーボール人口もだんだんと少なくなっているし、小学生の頃からやっていけば大人になっても体育協会に入ってバレーボールをするといったこともあると思う。

〔東川部会長〕

これは集計の仕方に関わってくることでもあるが、男女別、年代別、行政区別の3つは基礎データとして必要だろうと思う。すぐにはじき出せるものだと思う。もし、可能であれば、分厚くなるかもしれないがうまくまとめて委員の皆さんにお届けできるような段取りを考えたい。

〔萩原委員〕

アンケートの回収率が悪い。大人は50%を切っている。小学生とはかなり違う。

それと、施設の利用についてみると、学校の施設を利用する割合が少ない気がする。

〔小野委員〕

学校施設は個人では利用できない。

〔東川部会長〕

学校施設の利用が少ないのは、ひょっこり行っても利用できないことの表れかもしれない。

その反面、区のスポーツセンターの利用率は高い。

〔曽根委員〕

この意識調査であるが、この意識調査をどうスポーツ振興計画に反映させていくのが大切なところである。今回の調査の結果をみると、「こんな結果になるだろうな」ということで、スポーツ振興計画にどう反映させるのかを考えた時に、反映出来る内容が少ないように思う。読み取れない内容もある。例えば、21ページの「困っている項目のお金」の部分で、先ほど使用料という話があったが、もしかして使用料というよりも会費とか参加費のことかもしれない。そこまでは、この調査では分からない。

5ページの児童生徒のスポーツの関わりのところで、スポーツをしていない児童生徒が月1回～2回以下の人19.3%、前回が25%くらいだから、前回より少なくなったと思った。一方で、スポーツをしない理由が「特にない」が31.3%で、理由が特にないことはない。理由はあると思う。それは何かというところはこれでは見えない。ではどのようにクロス集計した方がいいのかというところは難しい。したがってあまりクロス集計にこだわると事務が煩雑になり過ぎてしまう。こういう統計では「情報の入手手段」などはスポーツ振興計画の策定に当たって参考になると思う。例えばインターネットからの入手が23.9%で4人に1人である。いかにホームページを充実させるのか、情報の一元化をどのようにすればいいのかという問題にもつながってくると思う。したがって情報をどう生かすのか、どう生かせるのか、何が生かせるのかを見ていった方がいいのではないかと思う。

〔東川部会長〕

当然、調査するには何らかの考えがあって調査するわけで、何も無いところで調査して方向性が出るものではない。ある程度裏づけが出るようなデータの出し方というものが工夫できればと思う。

【議事の(2)：第5次広島市基本計画案について】

〔東川部会長〕

議事の(2)「第5次広島市基本計画案について」事務局から説明をお願いする。

〔事務局(スポーツ振興課長)〕

<配付資料を説明>

< 意見等なし >

【議事の(3)：スポーツ振興に関する現在の取組と今後の課題等について】

〔東川部会長〕

議事の(3)「スポーツ振興に関する現在の取組と今後の課題等について」事務局から説明をお願いします。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

< 配付資料を説明 >

〔東川部会長〕

議事の(3)「スポーツ振興に関する現在の取組と今後の課題等について」説明をいただいたが、内容について何か御質問等があればお願いします。

〔本谷委員〕

「評価と今後の課題」というところで、今後の課題を解決するために、どのくらいのスパンで考えればよいのか。例えば、10年先なのか、20年先なのか、5年先なのかが分かれば話がしやすい。

〔東川部会長〕

この計画は、10年を一つのスパンとして考えてほしい。

〔鍋島委員〕

基本方針で3本の柱になっているが、1ページ目の「新しいスポーツ王国広島」の創造の現状と課題のところで、前回も論議になったが、「スポーツ王国広島」をどういう物差しにするのかということで中身の展開がまったく変わってしまう。「スポーツ王国広島」の10年先はこういう形になって、したがって1年毎の活動や目標値はこうしていくということにすると分かりやすくなると思う。言葉として皆さんの意見を集約するのはいいと思うが、実際に市民のスポーツ人口を何パーセント、次の年は何パーセント、全国的に「スポーツ王国」とするには何パーセント、国体の順位で言うと、トップレベルでいたいどのくらいでスポーツ王国と言うのか、また全国スポレク祭にはどのくらいの人で参加するとスポーツ王国と言えるのかなど、何か指標化できるようなものがあれば、ある程度、具体的な活動が見えてくるのではないかと。何を物差しにするのかが分かりにくい。

〔田川委員〕

恐らく「新しい」という言葉がついたのは、想像であるが、これまでのようなトップアスリートの育成ということを中心とした、底辺が市民で、頂点がトップアスリートという三角形ではなくて、トップアスリートの三角形と、障害者の三角形と、一般市民の三角形が一体となったピラミッド型の王国ではないか。その中でスポーツ施設は何の役割を果たすのかということになるのではないかと思う。そのイメージが一致していないとなかなか議論がしづらいかと思う。そういう意味でこの資料(現状と課題)の中にはその辺が出てこないで、基本計画そのものが理解しづらいし、言葉と中身が違う感じがする。

この基本計画の中で、深刻な議論はなされなかったのか。「新しいスポーツ王国広島の創造」というものを打ち出されたのは何か深い意味があるとは思いますが。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

田川委員の言われるとおり、競技スポーツだけではなく、地域スポーツであるとか、まちの活性化も含めて全体的に取り組むということであったかと思う。

〔崎田委員〕

古い「スポーツ王国」を調べてみて、どちらかというと「スポーツ王国」というと県外向

けの言葉じゃないかと思う。県外に向けて発した言葉が「スポーツ王国広島」で、その内容を見ると県内向けの「新しい」というイメージを受ける。そういう理解も可能なのかなと思う。

〔本谷委員〕

イメージ図とか概念図を計画案の中に盛り込むことはできるのか。「新しいスポーツ王国広島」というのはこういうものであるというイメージ図である。三角形とかピラミッドなどそれらをまとめたようなものである。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

スポーツ振興計画の中で定義すれば可能である。整理してみたい。

〔東川部会長〕

最近、円形のもので「見るスポーツ」「するスポーツ」「ささえるスポーツ」が重なり合ったようなイメージ図が示されているが、そういう概念図でしょうか。

〔本谷委員〕

そういうものがあればイメージしやすいと思う。決して昔言っている「スポーツ王国広島」というものと比較する必要はないが、「新しいスポーツ王国広島の創造」はこうであるというものがわかればいいと思う。

〔田川委員〕

イメージ図でいえば、多面体の三角推で、競技力向上という三角形、障害者スポーツという三角形、市民スポーツという三角形が一つに寄り添ったもので、その繋ぎの工作在施策であろうと捉えている。例えば地域スポーツの振興もしなければならぬし、トップスポーツの人達と接点をもってやらなければならない、そういう意味でそれぞれの三角形や三角推を保つのがこれからの施策ではないかと思っている。

〔曽根委員〕

スポーツ振興計画を作って10年の長期目標を掲げながら、広島市のスポーツ振興を図っていこうということだと思うが、最終的には、スポーツで市民の人達に笑顔を作っていこうということであると思う。この笑顔というのは何かというと、例えば、トップアスリートであれば競技力向上、要するに自分の記録が伸びたり、勝負に勝ったりということかもしれないし、市民であれば、自分のストレスを解消したり、いろんな人と出会ったりと、笑顔はその人その人でどのような笑顔を作っていきたいのかというのは違うけど、みんなが笑顔を作ってその輪を広げていくことが大切だと思う。

〔鍋島委員〕

これにプラスしてそれぞれの山に指標がでるような環境を作る、「新しいスポーツ王国広島」は非常にインパクトがある。そうすると市民の週1回以上のスポーツ実施率が何パーセントになるとスポーツ王国と言えるのか。それを目指して頑張ろうとすることが分かるようなものが必要になる。単なる言葉だけのスポーツ王国広島を作るのではなく、それが指標化できるような背景をもって書いていくことが大切である。三つの山なら三つの山で、こうなるとみんながスポーツ王国として誇れるなというものを作ることが必要である。

〔東川部会長〕

施策の具体的な目標数値を出してもよいのか。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

最近、そういったものの方が多い。

〔東川部会長〕

今二つほど決まった。

一つ目は、新しいスポーツ王国広島イメージ図を作ること。

二つ目は、施策の目標数値を示していくこと。

〔西野委員〕

このスポーツ振興計画を市民のみなさんに知ってもらうことが大切だと思う。このスポーツ振興計画をみなさんに知っていただく一つの手段が、スポーツ王国広島という文言が出ていることなのかなと感じる。指針の中にも3本柱というものがあり、それぞれがバラバラではなく、一つの建物をつくるために必要なように、それが三角錐であったりするのかなと思う。広島にはいろいろなスポーツがあるから自慢できるような広島になったらいいと思う。だから広島が好き、住みよい街で、みんなが活気づいてスポーツを積極的にやる。そのことによってみんなが笑顔になり、だから広島は居心地がいい。居心地がいいからもっと広島が好きになるということが大事なのかなと思う。自分は障害者と接していて、やはりスポーツは笑顔になれる手段の一つとして、また、健康になる方法としてスポーツがあると思うし、たくさんの人にスポーツを広めたいと思う。また子どもたちには、いつでもスポーツを始められるように、スポーツの環境を整えて待っているよという形になったらいいと思う。

〔阪田委員〕

基本計画の現状と課題を見ると考え込んでしまう。読めば読むほど競技力向上を中心に偏っているように感じる。

〔東川部会長〕

スポーツの専門家の方から基本計画を充実・補足していくのもいいんじゃないかと思う。基本計画について考えこんでしまう状況があるようなので、逆にわれわれの方から提案できるような形になればいいと思う。

〔曽根委員〕

スポーツ振興計画は、この基本計画を発展させる形で作っていくようになると思う。例えば校庭の芝生化についていうと、基本計画の第6章ではどこにも出てこない。どこに出てくるかというと、5ページの「教育環境・教育条件の整備・充実」の(1)のイのところに「校庭の芝生化」という表現が出てくる。

もう一つ心配しているのが、いろいろな内容が広く網羅されてはいるが、このままでは目玉がないものになってしまう。特色の無いスポーツ振興計画になってしまう。どういう目玉を今回のスポーツ振興計画で作っていくのかということが大事で、どれも大事な内容で選択しきれないが、話し合いの中で特色のあるスポーツ振興計画を作っていってもらえればいいなと思う。

〔本谷委員〕

総合的にやらないと特色を出すのは難しいとは思いつつも、目標を達成できるものを検討するという考え方でいいと思う。あたらずさわらずのものをを出しておけばいいというものであれば、総花的なもので終わってしまうのかなと思う。こういう振興計画を策定するという機会もあまりないので、特に実現性のあるものにしてもらいたい。それらを形として表せるものがよりよいと思う。

〔東川部会長〕

仮に10年計画を立てたとすると、10年が終わる頃には、必ず見直しをしなくてはならない。そうした時にこの計画はいったいどうだったのかということになると、その次の10

年があったりするとそこにまったくつながっていかない。総花的なものがただあっただけとなると何を広島市はやってきたのかということになる。新しいスポーツ王国広島というのは非常に問われてくると思う。計画の修正をしなければならなくなることも当然でてくると思う。そういうことも前提にしながら、例えばすぐやらなければならないものやあるいは少し時間をかけてやるものとか、あるいは長期的なビジョンをもってやるのか計画の中にグレードのようなものをつけることもできる。

〔本谷委員〕

ある程度数値化できるものは数値化して、10年後になって評価した時にどうだったのかとなった時に、もしそれが上がっていれば、また目標値に近づいていれば、審議会としても検討したものが良かったということになる。

〔田川委員〕

振興計画をみると「必要である」という言葉が多いように思う。ある程度量的なものから質的なものへの転換を図らなければならないと思う。したがって、今までやってきたことを見直し、質的なものをどう上げていくのか。そうするとそれに対する評価であるが、量的評価もあれば、質的な評価基準もある。どうもイベント型になると何万人来たかというものが評価基準になるが、その辺の議論がこれからは必要になってくると思う。

もう一つ言うと、計画は作ってしまったら終わり、後はそれぞれで頑張れよという感じになるが、チェックしなさいということになると、ある程度チェックしていく機関がいるのではないかと思う。今までは総合計画があるからスポーツ協会頑張れよという感じであったが、やった効果がうまくいっているのかどうか年に1回か2回は集まってチェックしてみるのも総合的にいるのかなと思う。いわゆるスポーツ振興計画をどう推進していくのかという推進体制のような機能をもたせたものが必要ではないかと思う。

〔東川部会長〕

このスポーツ振興計画にどのような機能をもたせるのかにかかわってくると思う。

定期的なチェックを誰がするのか。10年後にまたスポーツ振興計画を作るのかどうかということにもなるが、もし可能であれば計画の中に盛り込めれば、次も見越した計画になるのかなと思う。

〔鍋島委員〕

価値観が多様化した社会では、あれもこれも全部しなければならいということになってしまいが、時代の変化等を勘案し、どこかの段階で思い切ってやめて新しいことをやっていかないと、全部受けた上に新しい方針に沿ってまた新しいことをしなければならいとなるとパンクしてしまう。

10年先を見た時に地域縁というか血縁が崩壊する社会になっているわけだから、学区単位で物事をするのには、子ども会も構成員が少なくなっていて10年先を見るとどんどん崩壊していく。新しくどういう形でというのが、全国的にも先進なところはテーマ別につながっていくという形が結構まちを活性化していく。そういった意味では、10年先を睨んだ時には、スポーツというのはテーマ別につながりやすい。自分たちが自分たちのスポーツをするという形より、横の連携軸をもちながらテーマでつながりながら活性化するような仕組みが10年先を見た時に、何かおぼろげながらそういう方向でも出ていけばと思う。これから先の体育指導委員にしても今の形ではなく、指導の仕組みを変えていかなければならないのではないかと思う。そういう形のものが10年先に何かおぼろげながら着々と進んでいくような、そうするためには思い切って切れるものは切り、新しく加えるものは加えるような仕

組みを作らなければならないと思う。

〔萩原委員〕

確かに10年先は分からない。小学校の数も確実に減っていく。児童数が半分以上になっている学校も多い。我々の活動も学区単位で活動していたものが今までとはだいぶ変わってきた。それと、絵に描いた餅にならないような計画にしないといけない。

〔小野委員〕

スポーツ王国でレベルを上げようとするれば、やはり小学校、中学校の運動部の人たちにも頑張ってもらわなければならないし、体育指導委員の方も新しいスポーツが出ればそれを勉強して各学区に持ち帰って皆さんに広めて子どもから高齢者までスポーツを続けられるようにしている。グラウンド・ゴルフはかなり普及していて、今はペタンク競技を高齢者にもできる競技として区民スポーツ大会にも取り入れた。

それと、アジア競技大会の時でも、体育指導委員は約300人が一週間協力した。自分はセパタクローという競技の手伝いをしたが、その時も一週間通って審判の免許をとったが、そこで終わりだった。これももう少し続けて広げられるといいなと思った。資格をとるけれどもそのスポーツは消えていく形になる。これからは良いスポーツがあれば勉強して皆さんに広めていければいいなとは思っている。

〔萩原委員〕

これからは少子高齢化社会の中で、高齢者のスポーツを考えないといけないと思う。

〔中本委員〕

スポーツというのは元々遊びであるから、楽しくやればいいと思う。それが広島市のスポーツ振興計画の大本ではないかと思う。みんなが笑顔になるという方向でいくのがいいと思った。

〔崎田委員〕

国のスポーツ振興基本計画に「スポーツは文化である」と書いてあるが、スポーツの文化的な役割や社会的な役割を学べる施設があったらいいなと思う。

〔東川部会長〕

学ぶとなるとすぐスポーツ教室をイメージしてしまうが、学ぶという言葉に置き換えるともっと幅が広がるのかもしれない。キーワードになるかもしれない。

〔中野オブザーバー〕

中学校の現状だけ言わせていただくと、先ほど体力の調査結果が出ていたが、散々な結果である。学校の方では、いろいろとやっているが、正直なところ暗中模索で何をしていたのか分からない状況である。やはりご承知のとおり、子どものスポーツ離れというか、その辺が親の意識も含めてその辺の改革をしていかなければならない。それと、市の中学校体育連盟のことを言うと、今年度から中学校体育連盟では生徒から100円の参加料をとっている。実は広島市に予算がないため、お金を取らなければならない大会になっている。現在3大会もっているが、スポーツをする機会を減らすと復活することは無いと分かっているので、何とか大会を維持していこうということで、積算して1大会1人100円の参加料を取ることにした。年間300万円を集めさせてもらうことにした。そんな中で先ほど5年後10年後のスポーツ振興計画のことを言われていたが、中学校体育連盟としては予算のことを危惧している。特に来年度全国大会も来るので、そういう意味で、予算面でもう少しお金が入ってくる状況を作ってもらえればありがたい。それと施設利用が非常に厳しくなっている現状がある。もっともっとスポーツをする機会を増やしていくには、スポーツセンターも使用

料が高く親の負担も多くなるので、使用料の面も考えていただけるとありがたい。

それと外部指導の問題が出ていたが、市の方ではそういう制度を作ってもらっているが伸びていない。64校で年間30時間なので、年間1校あたり3万円ほどしか予算が無い、今後予算がついて伸びていくように期待はしているが、結果的には維持するのがやっとである。また、指導者の問題として、広島市の中学校は選択性をとっているの、ある一定の指導者のところに集まる傾向が出てきた。もちろん指導者は同じ学校に半永久的にはいないので、指導者が変わると人数の大移動があったりなどの問題がある。後は、広島で育った選手が県外にかなり出ているので、そういった指導体制が大切である。中・高連携、小・中連携もあるが、なかなか現状としては、国体の方も点数のことが出ていたが、その辺のことも考えていかないといけないと思う。

〔阪田委員〕

小学校の方も指導者の年齢層がかなり高くなって、先ほどの10年後の話を聞いて唖然としてしまった。

先ほどテーマでつなぐ地域というのがあったが、アジア大会の時に、公民館が1館1国で地域を巻き込んで盛り上がった。やはり冗談抜きでオリンピックを広島にもってこないといけないのかなという思いをしていた。そのぐらいのことをしないと10年後というのは広島のスポート王国をキープするには何か目標がないといけないんじゃないかと思う。小学校の指導者のほとんどが50代、10年後はほとんどいなくなる。30代がほとんどいない。採用していないからである。そういう意味では小学校は厳しい。このままでは子どもは将来の目標を失うのかなと唖然としてしまった。

〔事務局（スポーツ振興課長）〕

次回の部会は9月上旬を予定している。

〔東川部会長〕

あまり急いで中身を作っても絵に描いた餅になりそうな気もしないではないので、次回はもう少し具体的な内容を検討していただく段階になろうかとは思っている。もう少し皆さんの意見交換というものを大事にする感じで次の会議をもたせてもらった方がいいかなと思っている。最後のまとめのところは、誰かがまとめなければならないが、それをまとめるプロセスがその後の10年にとても関わってくるような気がする。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

実は今日、お願いしようとしていたことを皆さんの方からご提案いただき非常にありがたかった。本谷委員が言われたように役人がまとめると必ず総花的になってしまう。基本計画に沿って作ると総花的になる。やらなければならない当たり前のことを当たり前のよう実施するための計画が基本計画であり、行政計画である。せっかく各分野のエキスパートの皆さんに集まっていたので、やはりお集まりの委員さんならではのスポーツ振興計画を作っていただきたいと思う。総花的なことは行政サイドが行うので、ここはやはりある程度ポイントを絞って作っていただきたい。柱は4本立てているが、この4本でなくてもいいと思う。新しい基本計画が出来つつあるのが私どもにとってはいいようで悪いような感じである。基本計画があるのにスポーツ振興計画をなぜ作るのかという話になる。基本計画の具体案を網羅するだけ、というのでは面白くない。やはりスポーツ王国というのは何か、何が足りないか、それをまず抽出して論点整理をしていくべきだと思う。それぞれ得意分野が皆さんおありなので、それを今日言っていて、それを東川部会長と事務局の方で論点整理をして次の部会に柱立てをしていこうかなと思っていた。

計画期間であるが、基本計画は10年なので、このスポーツ振興計画も10年であろうと思っているが、先ほども10年先はどうなるか分からないという意見があったが、例えば短期、中期、長期と区分して、スポーツ振興計画では短期、中期、3年5年で何をやっていくのか、ポイントを絞って重点施策を策定していくというようなやり方があっていいと思う。2回目、3回目の部会をやる中で本当に10年のスパンだけでいいのか、あるいは重点施策をどのように絞っていくのかを話し合って方向性を出していただきたいと思う。

【閉会】

〔東川部会長〕

それでは、ただいま部長さんの方から方向性について了承をいただいたので、次回あたりは今日の内容を取りまとめながら、復習をしながら基本方針というか、基本理念というか、計画もスパンを10年だけで考えていくのか、スパンを切ってやっていくのか、これから詰めていく上での基本となることを再度確認しながらやっていきたいし、もうひとつは内容の構成の仕方もあると思う。広島市もこれまでやってきていることを評価しながら新たな計画を立てるという考え方もある。そういった基本的な柱というか構成を詰めておいた方がいいと思う。その上で一つ一つ中身を決めていくという流れでいいかなと思う。そんな方針も次回の時にご意見をいただければと思う。

〔曽根委員〕

今回の部会で、目指すべきイメージが共有できたような気がする。トップダウンで作っていくやり方もあるが、積み上げで作るやり方もある。次回は自分たちが考える重点施策というものを披露してはどうか。

〔事務局（文化スポーツ部長）〕

次回の部会までに文書で依頼するので、重点施策について意見を提出していただきたい。